

山元町小・中学校再編にかかる保育所・幼稚園保護者意向調査

【報 告 書】

平成 3 0 年 3 月

山元町教育委員会

目 次

【保育所・幼稚園保護者意向調査】

1章.調査の概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査期間	1
(4) 調査項目	1
(5) 回収状況	1

2章.意向調査結果

1 回答者の属性	
(1) 性別	2
(2) 世代別	2
(3) 居住する行政区	2
(4) 居住する小学校区	3
(5) 中学生以下の子どもの人数	3
2 学校の存在意義と学校の教育環境に期待するもの	
(1) あなたにとって学校とは（複数回答）	4
(2) 小学校の教育環境に期待すること（複数回答）	4
(3) 中学校の教育環境に期待すること（複数回答）	5
3 望ましい学校規模	
(1) 望ましいと考える小学校1学年あたりのクラス数	5
(2) 望ましいと考える小学校1クラスあたりの児童数	5
(3) 望ましいと考える中学校1学年あたりのクラス数	6
(4) 望ましいと考える中学校1クラスあたりの生徒数	6
(5) 複式学級の編成について	6
4 学校再編検討の必要性について	
(1) これからの山元小・中学校再編の検討について	7
(2) 再編を検討していく際に重要と考えること（複数回答）	12
(3) 再編を検討する段階でない・必要ないとしたこと	12
5 自由記述（抜粋）	13

参考：保育園・幼稚園保護者意向調査票

1章.調査の概要

(1) 調査の目的

平成25年3月に震災により被災した中浜小学校と山下第二小学校の併設状態解消を最優先に検討し、併せて、将来の学校再編について幅広い視点から検討が必要であるとし、「山元町小・中学校教育環境整備方針」を策定しました。

全国的な少子高齢化により、児童生徒数の減少が進んでおり、本町においても先の東日本大震災の影響等も含め、現在も児童生徒数の減少が進んでいる状況です。

このような状況の中、今後の本町の学校再編のあり方について、「児童生徒にとってよりよい学び(学校生活)ができる環境をつくる」ことを第一義に、前回の教育整備方針を含め、改めて本町の学校再編の在り方について検討を進めることとし、意向調査を実施するものです。

(2) 調査対象

町内保育所及び幼稚園の保護者を対象

(3) 調査期間

平成30年1月15日にて各保育所及び幼稚園から配布。1月29日を最終期日として各保育所及び幼稚園にて回収

(4) 調査項目

区分		設問
1	回答者の属性	問1. 性別、年齢について
		問2. 居住する行政区と小学校区について
		問3. 居住世帯における子どもの有無
2	学校の存在意義と学校の教育環境に期待するもの	問4. 自身が考える学校の存在意義やあり方について
		問5. 小学校と中学校の教育環境に望むこと
3	望ましい学校規模	問6. 小学校の学校規模について
		問7. 中学校の学校規模について
		問8. 複式学級について
4	学校再編検討の必要性について	問9. 学校再編検討の必要性について
		問10. 上記問9の「検討要」とした場合に重要と思うこと
		問11. 上記問9の「検討不要」の理由
5	自由記述	問12. 小中学校再編等にかかる意見や心配事について

(5) 回収状況

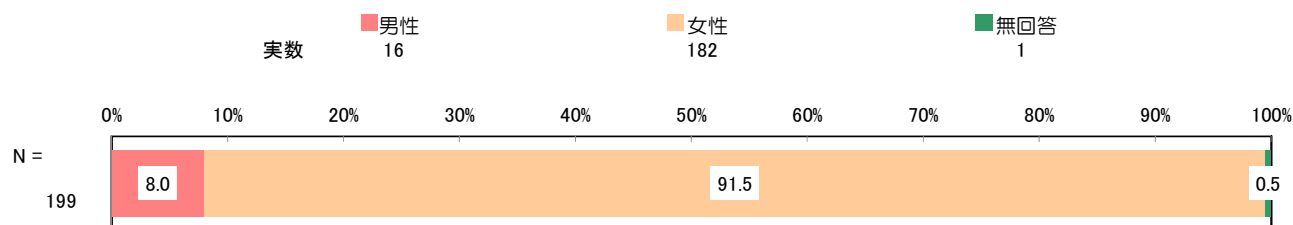
配布数	総回収数	有効回収数	無効回収数	総回収率	有効回収率
232件	200件	199件	1件	86.2%	85.8%

2章. 意向調査結果

1 回答者の属性

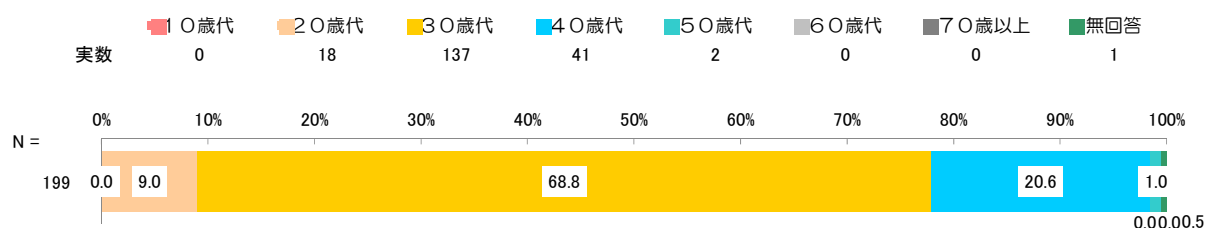
(1) 性別【問 1-①】

回答者の性別構成は、「男性」が 8.0%、「女性」が 91.5%であった。



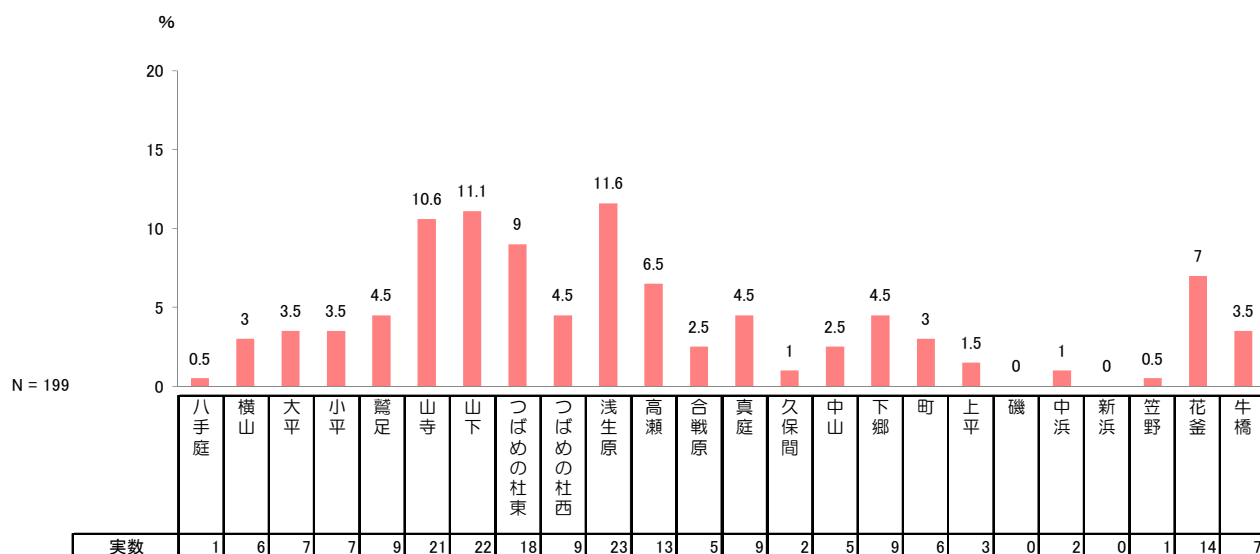
(2) 世代別【問 1-②】

世代別年齢で最も多いのは、「30 歳代」68.8%、次いで「40 歳代」20.6%、「20 歳代」9.0%であった（地域住民意向調査、小・中学校保護者意向調査における回答者との重複を避けたため）。



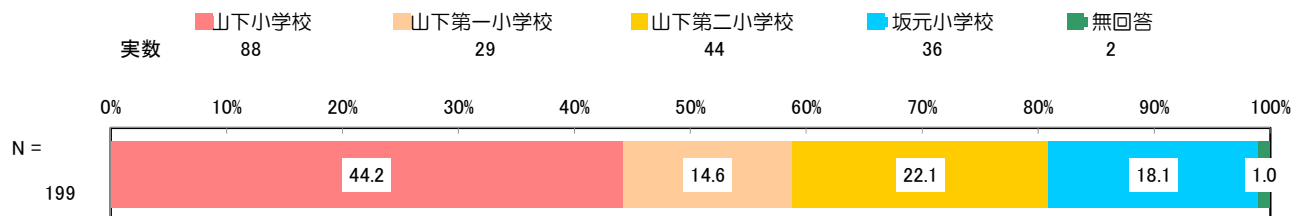
(3) 居住する行政区【問 2-①】

居住する行政区で最も多いのは、全体で「浅生原地区」11.6%、次いで「山下地区」11.1%、「山寺地区」10.6%であった。



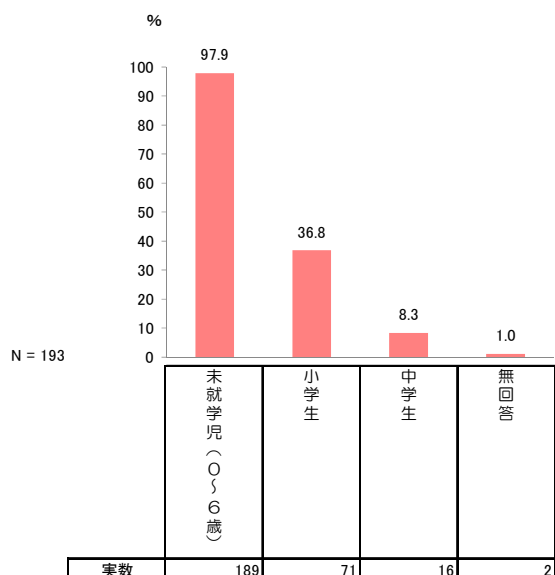
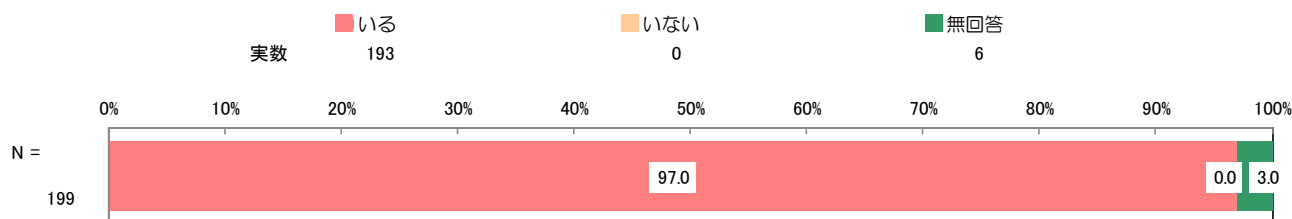
(4) 居住する小学校区【問 2-②】

回答者が居住する小学校区で最も多いのは、「山下小学校区」44.2%、次いで「山下第二小学校区」22.1%、「坂元小学校区」18.1%であった。



(5) 中学生以下の子どもの人数【問 3】

同じ世帯に中学生以下の子どもがいる回答者 193 名中、中学生以下の子どもの人数が最も多いのは、「未就学児」189 人 (97.9%)、次いで「小学生」71 人 (36.8%)、「中学生」16 人 (8.3%) であった。



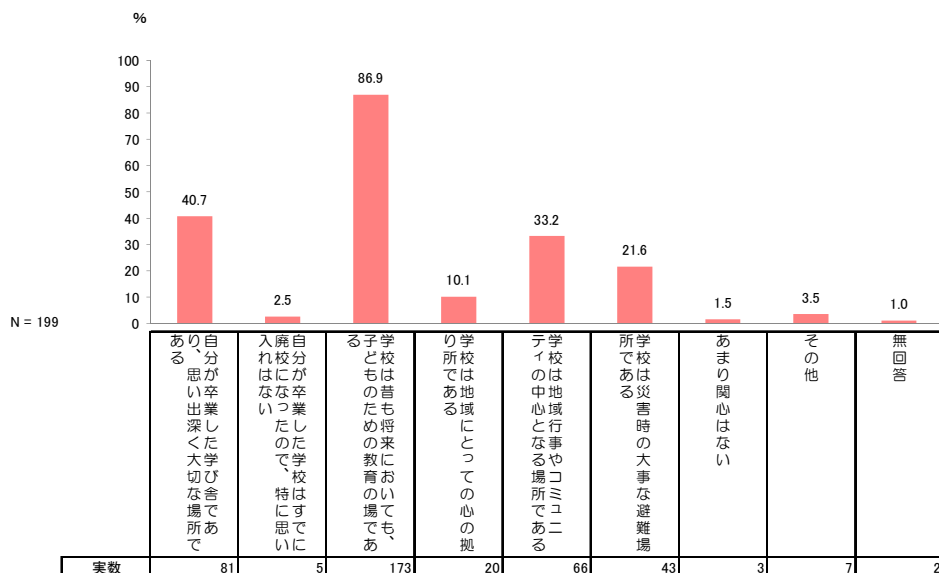
2

学校の存在意義と学校の教育環境に期待するもの

(1) あなたにとって学校とは(複数回答)【問 4】

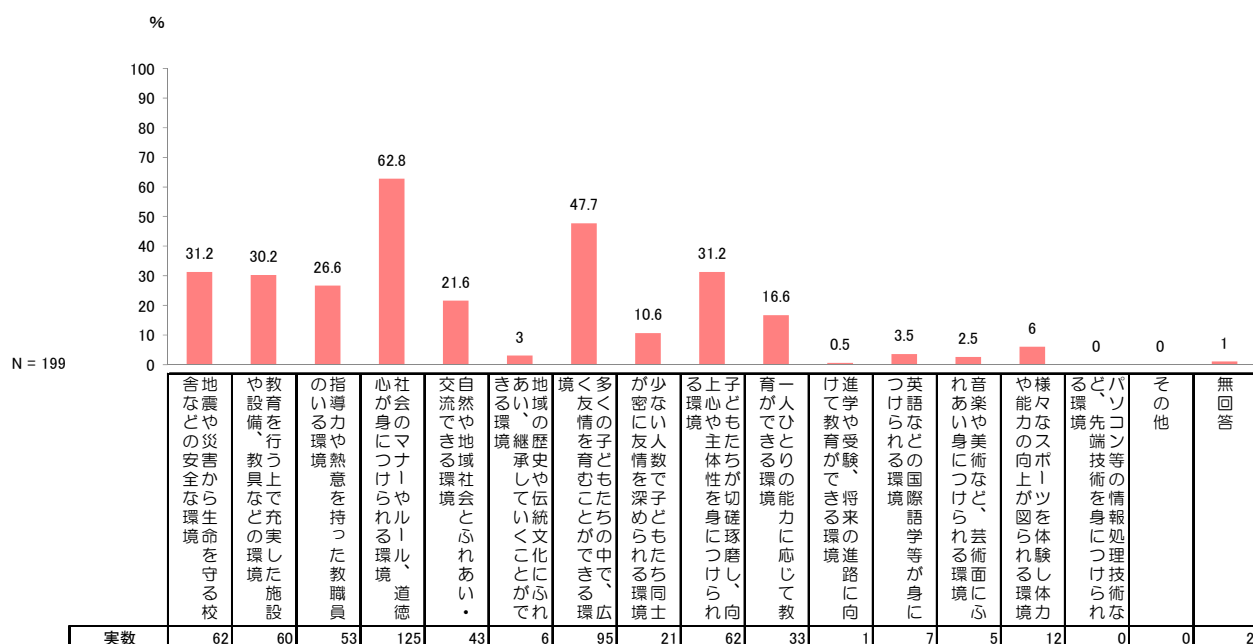
「あなたにとって学校とはどのようなものですか?」という問いで最も多いのは、「学校は昔も将来においても子どものための教育の場…」173 票 (86.9%)、次いで「自分が卒業した学び舎であり思い出深い…」81 票 (40.7%)、「学校は地域行事やコミュニティの中心…」66 票 (33.2%) であった。

9 割近い回答者は、「学校とは子どもたちのためのもの」との思いにて回答していることが伺える。



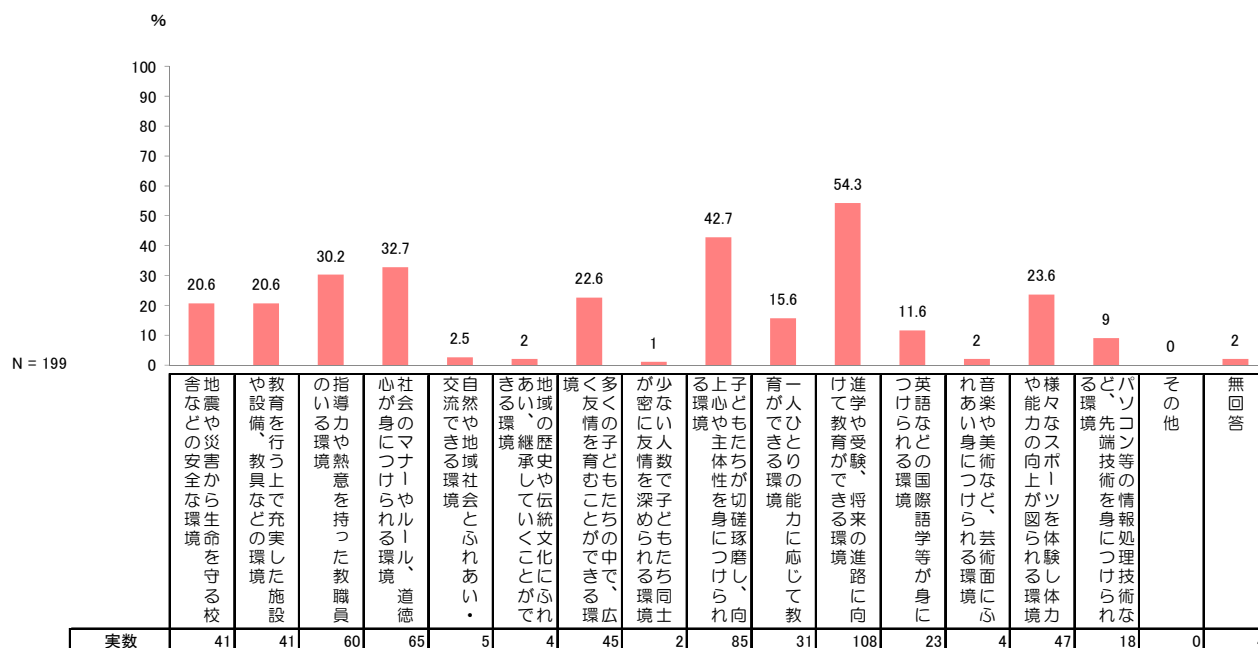
(2) 小学校の教育環境に期待すること(複数回答)【問 5-①】

小学校の教育環境で期待することで最も多いのは、「社会のマナーやルール、道徳心が身につく…」125 票 (62.8%)、次いで「多くの子どもたちの中で友情を育む…」95 票 (47.7%)、「地震や災害から生命を守る安全な校舎…」62 票 (31.2%) であった。これらのことから、地域が期待する小学校の教育環境とは、多くの子どもたちの中で友情を育みながら、社会性や道徳心を身に付けられる環境と捉えられる。



(3) 中学校の教育環境に期待すること（複数回答）【問 5-②】

中学校の教育環境に期待することで最も多いのは、「進学や受験、将来の進路に向けた教育…」108票（54.3%）、次いで「子どもたちが切磋琢磨し…」85票（42.7%）、「社会のマナーやルール、道徳心が身につけられる…」65票（32.7%）であった。このことから、保育所、幼稚園保護者が期待する中学校の教育環境とは、進学・受験などの将来に向けて子どもたち同士が切磋琢磨するとともに、社会性を身に付けていける環境と捉えられる。

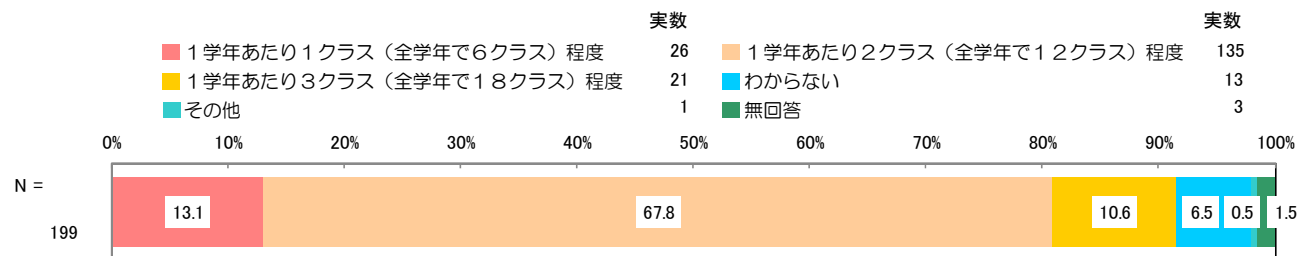


3 望ましい学校規模

(1) 望ましいと考える小学校1学年あたりのクラス数【問 6-①】

望ましいと考える小学校1学年あたりのクラス数で最も多いのは、「2クラス程度」67.8%、次いで「1クラス程度」13.1%、「3クラス程度」10.6%であった。

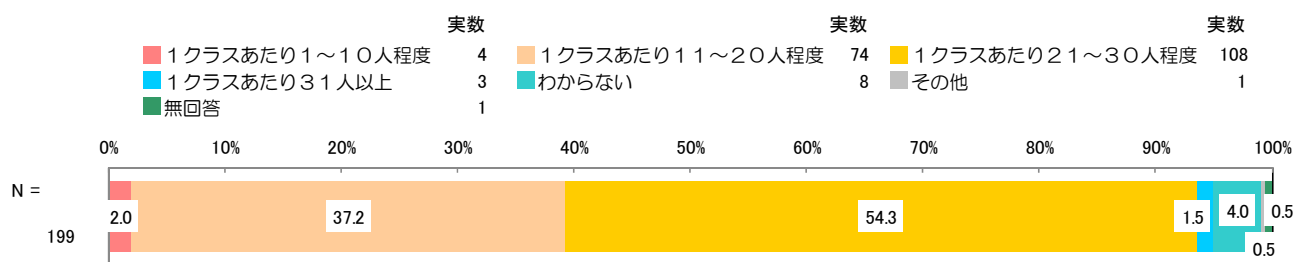
回答者の半数以上が1学年あたり「2クラス程度」を望んでいることが伺える。



(2) 望ましいと考える小学校1クラスあたりの児童数【問 6-②】

望ましいと考える小学校1クラスあたりの児童数で最も多いのは、「21～30人程度」54.3%、次いで「11～20人程度」37.2%、「わからない」4.0%であった。

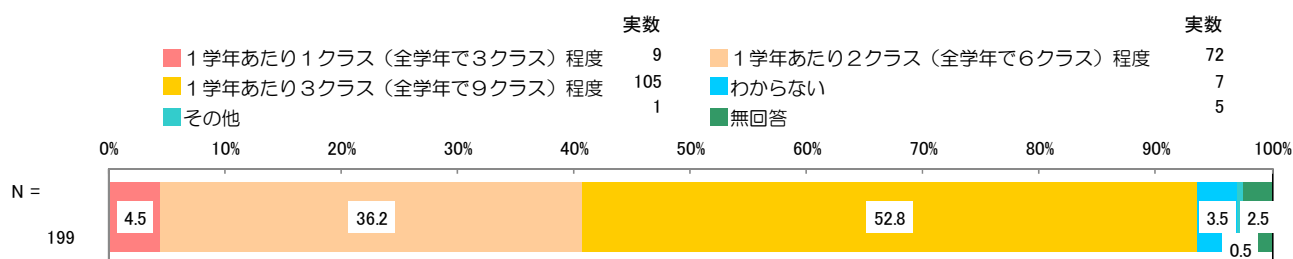
回答者の半数以上が1クラスあたり「21～30人程度」を望んでいることが伺える。



(3) 望ましいと考える中学校 1 学年あたりのクラス数【問 7-①】

望ましいと考える中学校 1 学年あたりのクラス数で最も多いのは、「3 クラス程度」52.8%、次いで「2 クラス程度」36.2%、「1 クラス程度」4.5%であった。

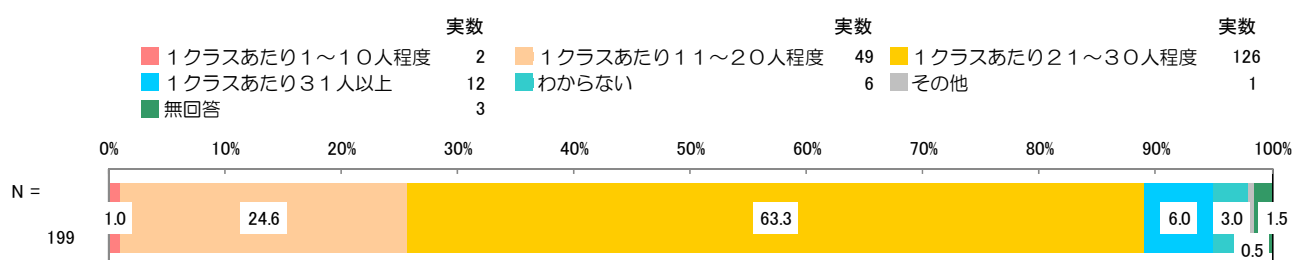
回答者の約 9 割近くが、中学校 1 学年あたり「2～3 クラス程度」としていることから、中学校においては、最低限クラス編成可能な規模を望んでいることが伺える。



(4) 望ましいと考える中学校 1 クラスあたりの生徒数【問 7-②】

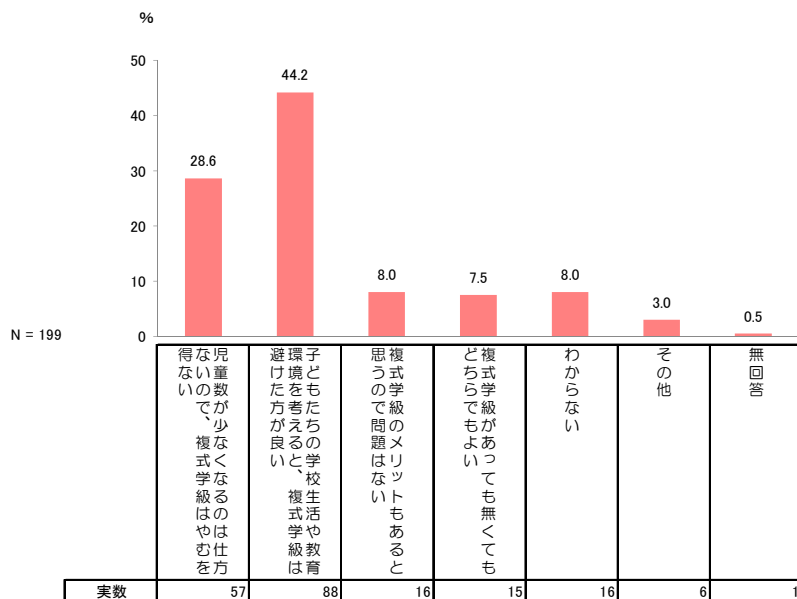
望ましいと考える中学校 1 クラスあたりの生徒数で最も多いのは、「21～30 人程度」63.3%、次いで「11～20 人程度」24.6%、「31 人以上」6.0%と続く。

回答者の 6 割以上が 1 クラスあたり「21～30 人程度」と、クラス人数に関しては小学校と同じ程度のクラス人数を望んでいることが伺える。



(5) 複式学級の編成について【問 8】

複式学級編成の可能性が出てきた場合についてどう考えるかの問いで最も多いのは、「…複式学級は避けたほうが良い」44.2%、次いで「…複式学級はやむを得ない」28.6%、「複式学級のメリットもある…問題はない」「わからない」8.0%であった。このことから、回答者の 4 割が複式学級は避けた方がよいとの意向を示している。



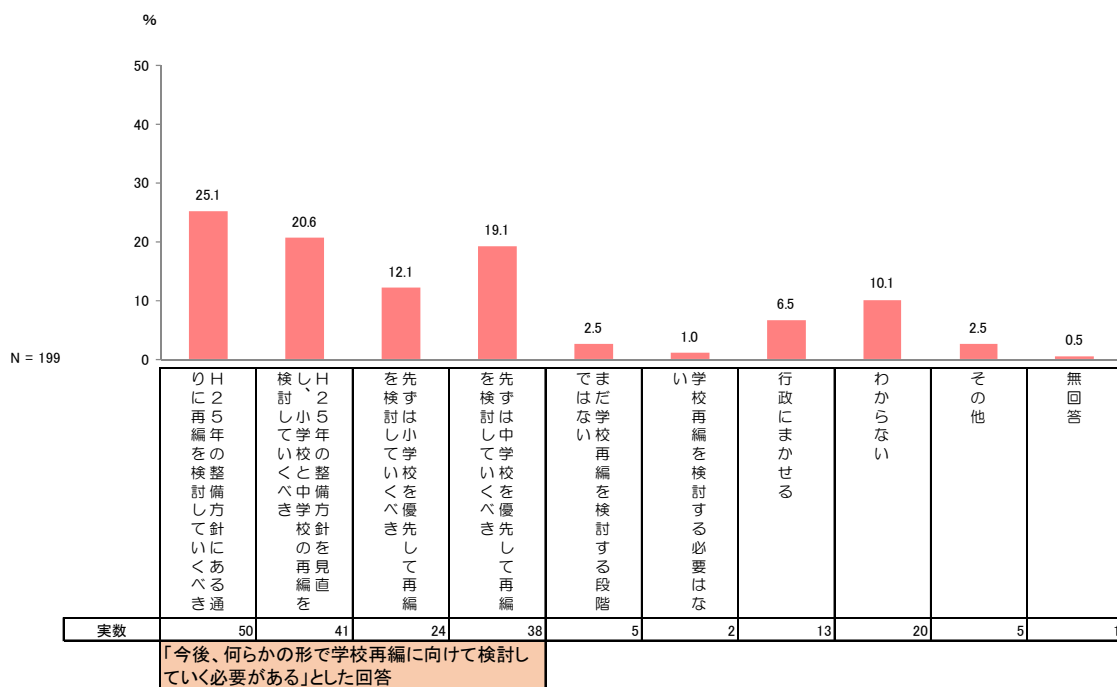
4 山元小・中学校再編における検討の必要性について

(1) これからの山元町小・中学校再編の検討について【問 9】

今後の山元町教育環境を考えるうえで、「山元町小・中学校再編における検討の必要性」の問いで、最も多いのは「H25年の整備方針にある通りに再編を検討…」25.1%、次いで「H25年の整備方針を見直し再編を検討…」20.6%、「まずは中学校を優先して再編を検討…」19.1%であった。

「まずは小学校を優先して再編を検討…」の結果も含めると、回答者の7割以上が、「今後、何らかの形で学校再編に向けて検討していく必要がある」と考えていることが伺える。

一方、「まだ学校再編を検討する段階ではない」は2.5%、「学校再編を検討する必要はない」1.0%、合わせて3.5%と、再編の検討を不要とする意向は1割に満たない結果であった。



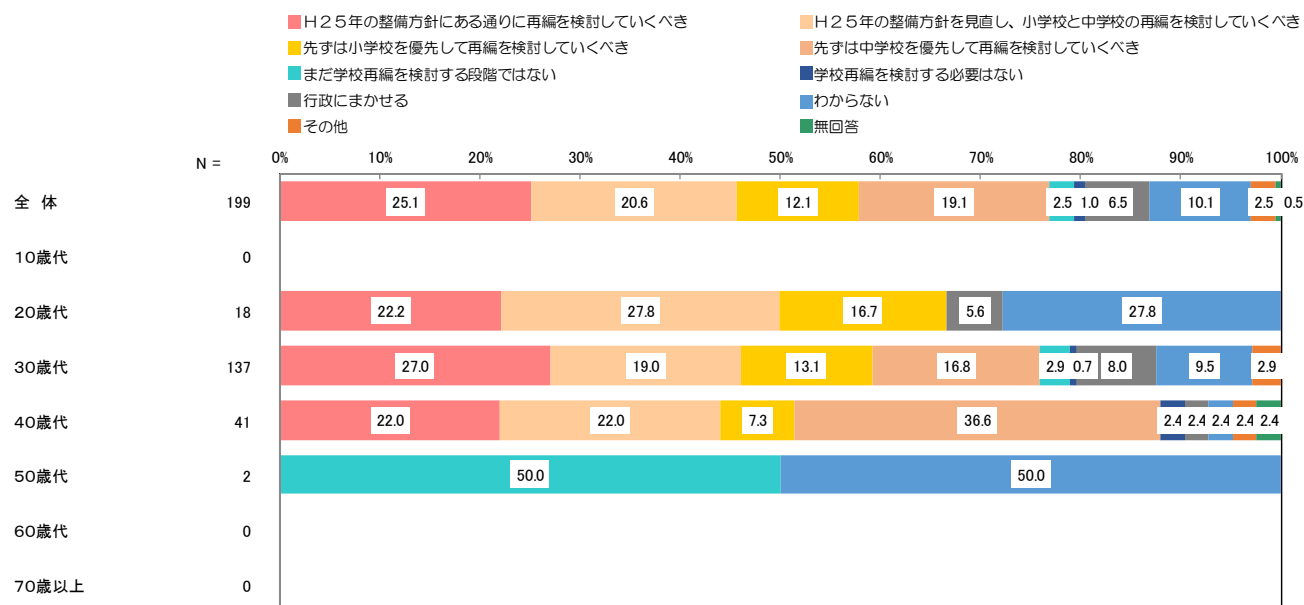
【世代別クロス集計】

ここでは、前述した「山元町小・中学校再編における検討の必要性」の結果について、世代別にその傾向をみていくものとする。

全体では7割以上が、「今後、何らかの形で学校再編の検討は必要」と回答しており、中でも「40歳代」が最も多く87.9%と約9割近くを占め、次いで「30歳代」75.9%であった。

一方、「まだ学校再編を検討する段階ではない」と「学校再編を検討する必要はない」を合わせて多かった世代は、「50歳代」50%、次いで「30歳代」3.6%、「40歳代」2.4%であった。

問9 山元町の学校再編についてどう考えるか



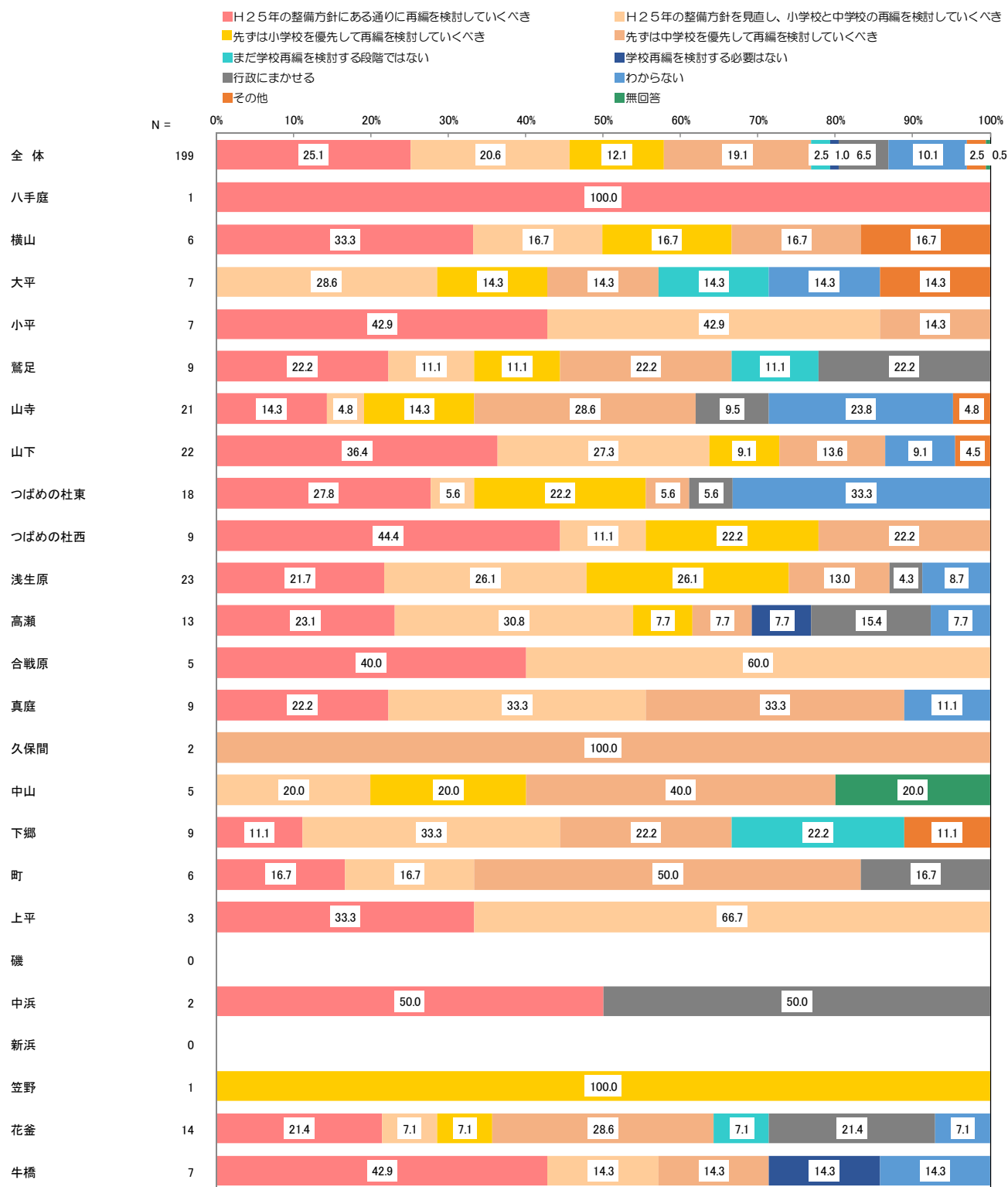
	N=	H25年の整備方針にある通りに再編を検討していくべき	H25年の整備方針を見直し、小学校と中学校の再編を検討していくべき	まずは小学校を優先して再編を検討していくべき	まずは中学校を優先して再編を検討していくべき	まだ学校再編を検討する段階ではない	学校再編を検討する必要はない	行政にまかせる	わからない	その他	無回答
全体	199	50	41	24	38	5	2	13	20	5	1
10歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20歳代	18	4	5	3	0	0	0	1	5	0	0
30歳代	137	37	26	18	23	4	1	11	13	4	0
40歳代	41	9	9	3	15	0	1	1	1	1	1
50歳代	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
60歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※構成比が0.0%の項目については、グラフ内の値(数値)の表記を省略している。

【行政区別クロス集計】

同じように、前述した「山元町小・中学校再編における検討の必要性」の結果について、ここでは行政区別にその傾向をみていくものとする。全ての行政区が5割以上の割合で、「今後、何らかの形で学校再編の検討は必要」としていることが伺える。

一方、「まだ学校再編を検討する段階ではない」と「学校再編を検討する必要はない」を合わせて多かった行政区は、「下郷」22.2%、次いで「大平」14.3%、「鷺足」11.1%であった。



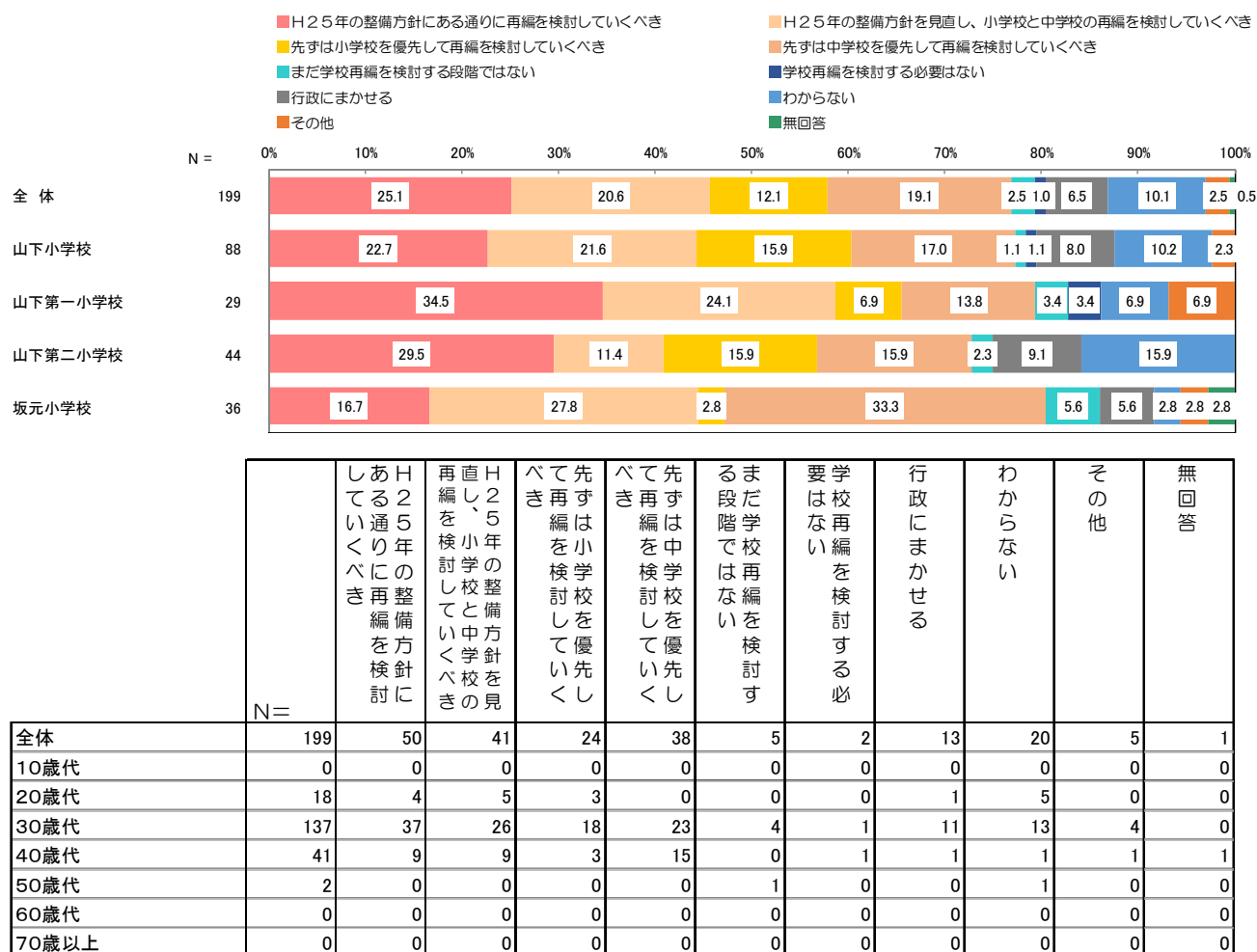
	N=	H25年の整備方針にある通りに再編を検討していくべき	H25年の整備方針を見直し、小学校と中学校の再編を検討していくべき	まずは小学校を優先して再編を検討していくべき	まずは中学校を優先して再編を検討していくべき	まだ学校再編を検討する段階ではない	学校再編を検討する必要はない	行政にまかせる	わからない	その他	無回答
全体	199	50	41	24	38	5	2	13	20	5	1
八手庭	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横山	6	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0
大平	7	0	2	1	1	1	0	0	1	1	0
小平	7	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0
鷺足	9	2	1	1	2	1	0	2	0	0	0
山寺	21	3	1	3	6	0	0	2	5	1	0
山下	22	8	6	2	3	0	0	0	2	1	0
つばめの杜東	18	5	1	4	1	0	0	1	6	0	0
つばめの杜西	9	4	1	2	2	0	0	0	0	0	0
浅生原	23	5	6	6	3	0	0	1	2	0	0
高瀬	13	3	4	1	1	0	1	2	1	0	0
合戦原	5	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0
真庭	9	2	3	0	3	0	0	0	1	0	0
久保間	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
中山	5	0	1	1	2	0	0	0	0	0	1
下郷	9	1	3	0	2	2	0	0	0	1	0
町	6	1	1	0	3	0	0	1	0	0	0
上平	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
磯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中浜	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
新浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笠野	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
花釜	14	3	1	1	4	1	0	3	1	0	0
牛橋	7	3	1	0	1	0	1	0	1	0	0

【小学校区別クロス集計】

ここでは、前述した「山元町小・中学校再編における検討の必要性」の結果について、小学校区別にその傾向をみていくものとする。

全ての小学校区が7割以上の割合で、「今後、何らかの形で学校再編の検討は必要」としていることが伺える。

一方、「まだ学校再編を検討する段階ではない」と「学校再編を検討する必要はない」を合わせて多かった小学校区は、「山下第一小学校区」6.8%、次いで「坂元小学校区」5.6%、「山下第二小学校区」2.3%であった。

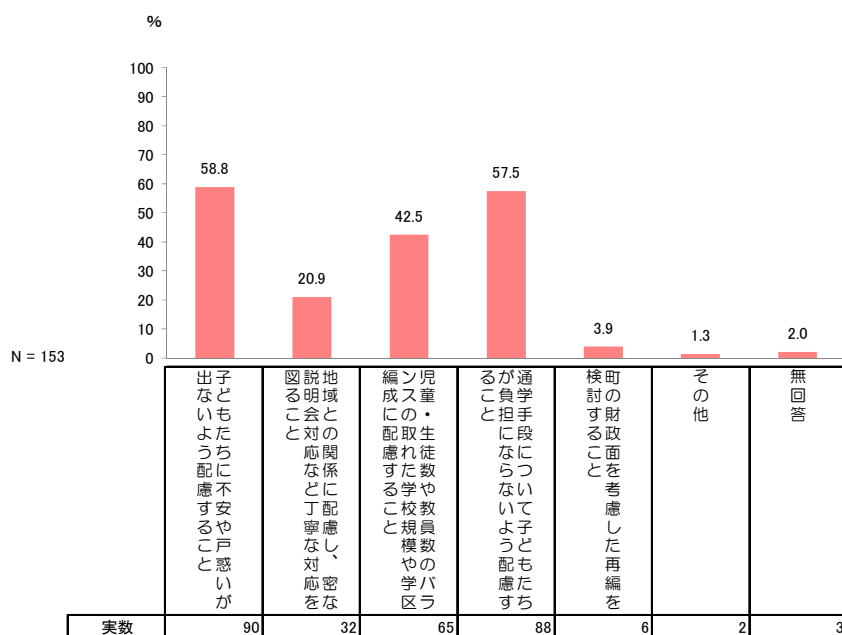


※構成比が0.0%の項目については、グラフ内の値(数値)の表記を省略している。

(2) 再編を検討していく際に重要と考えること（複数回答）【問 10】

「今後、何らかの形で学校再編の検討は必要」とした回答者 153 名について、再編を検討していく際に重要と考えることは何かを確認した。その中で最も多いのは、「子どもたちに不安や戸惑いが出ないように配慮…」90 票（58.8%）、次いで「通学手段について子どもたちが負担にならないよう配慮…」88 票（57.5%）、「児童・生徒数や教員数のバランスの取れた…」65 票（42.5%）であった。

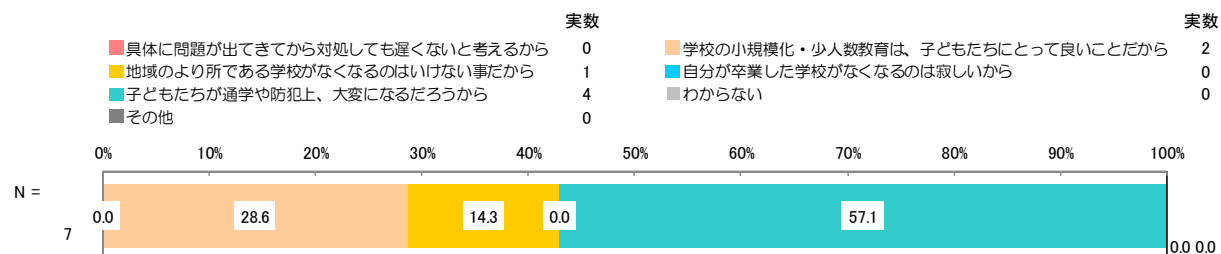
このことから、回答者の 6 割近くが、子たちの精神面と通学手段において心配し、子どもたちに負担が出ないことを望んでいることが伺える。



(3) 再編を検討する段階ではない・必要ないとしたこと【問 11】

また、「再編を検討する段階ではない」「再編を検討する必要はない」とした回答者 7 名について、その理由を確認した。その中で最も多いのは、「子どもたちが通学や防犯上、大変になるから…」57.1%、次いで「学校の小規模化・少人数教育は良いこと…」28.6%、「地域のよりどころである学校がなくなる…」14.3%であった。

このことから、「再編の検討段階でない・必要ない」とする回答者と前述の「再編を検討する際に重要と考えること」の回答者については、いずれも「子どもたちの通学」を一番に考慮した回答であったことが伺える。



【小中学校の再編について】

どちらにせよメリット・デメリットがあると思うので、子どもたちがのびのび遊べ、選択肢の多い学校生活が送れるようになってほしい。
平成31年度山下第一小学校に子どもが入学予定。入学児童三人で六年間を過ごすのかと思うとこのまま入学させていいものかとすごく悩んでいる。大人数の中で過ごした場合と比べ、育ってほしい部分が育ってくれないのではと考える。
複式学級は子どものためになるとは思えない。山元町にひとつの小中学校になったとしても避けてほしい。
人数が少ないことのメリットもあるが、クラス替えがなく交友関係が固定されてしまうことで、万が一いじめなどがあった場合に逃げ道がないなどの心配がある。
少しでも早い段階で統合することが、人間関係を作るうえ、社会性を身に着けるうえで必要だと思う。
児童数が少なくなるのは仕方ないが、一クラスしかないのは子どもにとってデメリットだと思う。クラス替えがあった方がよい。
一刻も早く再編してほしい。特に小学校の再編は時間がかかと思うので早めに進めてほしい。
子どもが少ないのはさみしい。自分がマンモス校で育っているので少人数の良さがわからない。将来的に人がたくさんいる環境になじめないのではと心配なので、子どもがたくさんいる中で育てたい。
交友関係や部活動の選択の幅が広がるような環境を再編の中で考えていってほしい。クラス替えがなく、固定した人間関係で何かトラブルがあった場合に心配。
小学校は統合せず、中学校はした方がいい。
小中学校ともに一校でいいと考えている。過疎化の上に教育環境も充実していない環境では人口も増えないと思う。
小学校は将来的に二校でいいと思う。中学校は生徒数の減少で部活動が制限されているので早急に統合を。選ぶ楽しみや、クラス替えなどで人とのかわり方なども経験させてあげたい。
今後子どものクラスが複式になったり、一クラスの人数が極端に少なくなったりすることが心配。小学校生活六年間で多くの友人と過ごすことは大切だと思う。
学力レベルが他の地域に劣らないよう、競い合える仲間が多い方がいい。生徒数が増え部活動も充実すれば、子どもたちの可能性が広がる。他校のように東北大会や全国大会に出場できるレベルになれる可能性も。
中学校は部活動の面からみて、再編に賛成。
子どもが数年後小学校に入学する事を考えると、多くの友人と触れ合える環境になっているのが望ましい。クラス替えがないと、いじめなどの問題が起こった場合に六年間リセットできなくなってしまうのではと思う。
子どもたちは適応能力があるので、環境の変化という点では心配ないと思う。ただ小中同時の再編ではなく、まずは中学校を優先すべき。複式学級の例を挙げても、小学校の間は手厚きめ細かい指導が受けられてよいが、中学校では大人数の中で切磋琢磨できた方がいい。
現在は小学校の一クラスの人数が少なすぎて、幼稚園・保育所の時よりも友人が減ってしまい子どもが不安に思うのでは。
子どもの人格形成において多くの人と接して友人関係を築いていった方が有意義だと思う。子どもの成長のためを思うなら再編を進めるべき。実際に学校に通う子を持つ親の意見を尊重すべき。
早急に統合を進めてほしい。このままでは子どもたちに競争心が育たない。教育熱心な家庭ほど転出を考えてしまうと思う。
小学校は一つでいいと思う。
一日も早く再編をすべきだと思う。実際に何か問題が出てきてからでは遅すぎる。

被災後子どもの通学の便も考慮して自宅の場所を決めたので、再編によって遠くなってほしくない。
坂元から小学校をなくさないでほしい。
中学在学時に統合されてしまうと子どもたちの戸惑いが大きいのでは。やむを得ず統合になる場合は在校生だけでもその学校から卒業できるような配慮も必要。特に受験生は不安になると思う。
学校は学び舎意外にも様々な側面を持っている。人数が少ないからまとめていく、というような安易な考えであればやめてほしい。
小学校は平成32年度以降もまだそれなりの入学予定者が見込めるので、再編は時期尚早。
小学校で少人数教育が受けられるのは貴重な経験。何かあったときすぐに相談できる環境は、親としても安心して送り出すことができる。
地域によって“荒れている”とまでいなくても、それに近い学校もあると聞いている。そういうところと一緒にいると思うと心配。
中学校は通学距離が長い生徒の事を思うと心配。今まで通りがよい。

【部活動、学校行事について】

子どもの将来につながるので、やりたいスポーツや楽器をやらせてあげたい。
部活動の選択の幅が少ないのがかわいそう。
高校に入ってから運動部に入ると周囲とのレベルが違いすぎて活躍できない場合もでてくるので、部活動は選択肢が多い方がよい。実際に坂元からサッカー部のある山下中学校に通いたく、てアパートを借りている家庭もあると聞く。

【学校区、通学路、通学バス等について】

通学の（送迎などによる）時間的な問題が子どもの負担になっていないか心配。
スクールバスの導入など、家庭の送迎に頼らない通学になることを望む。
児童の通学に関して、安全の確保を第一に考えてほしい。
無料のスクールバスを検討してほしい。
（小中学生の）通学ためのぐるりん号利用は無料にすべき。
坂元地区にはひとつ小学校があるべき。
送迎が必要な生徒に対して児童クラブの時間を延長するなどの配慮を。登下校に関して安全面を考慮してほしい。
通学距離が極端に遠くならないような学区わりにしてほしい。
小中学校が中心部に集中する場合、スクールバスの検討をお願いしたい。安心して通学できるような環境を。
人数から考えて、坂元・山下小学校でひとつ、山下第一・第二小学校でひとつの二校になるのが望ましい。坂元と山下第二の被災した二校が一緒になるのは、子どもたちの心のケアの面からみても望ましくない。
通学にはスクールバスが必要。無料が無理でも定期などで割安で利用できるようにしてほしい。
学校との距離がある場合にスクールバスを出してほしい。

児童・生徒の通学が危険でないように、家庭にその負担がかからないようスクールバスなどの定期便を再編と併せて検討してほしい。
県警からの不審者情報もメールで得ているが、町内の不審者も多く子どもの送迎を検討せざるを得ない。スクールバスがあれば安心して通学させられると思う。
スクールバスを出してほしい。送迎と出勤の時間が合わず負担である。
山下地区の小学校二校にするのであれば、第一小学校と第二小学校を統合すべきだと思う。
震災で色々あったとはいえ山下小学校区から山下第二小学校に通うなど、現段階で学区の区分がしっかりしてないのはおかしい。はっきりさせた方がいい。
坂元小学校と山下第二小学校の被災した地域をひとつにするのはやめてほしい。心のケアが大変だと思う。
統合するのなら、スクールバスの乗車賃はもちろん町が負担すべき。
通学の際は無料のスクールバスを出してほしい。(公立の小中)学校に通うのに運賃を払ってぐるりん号に乗るという現状はおかしいと思う。

【その他】

再編の影響のある(今後も含む)対象者を中心に、可能であれば説明会や座談会を開いてほしい。
保育所の時のように、人を呼んでの説明会だけでは足りない。学校行事等で人が集まる機会無駄にせず、行政から出向いてはどうだろうか。
子どもが義務教育の期間中、学校近くのアパート等に入居の際に家賃補助があってもいいと思う。
30人くらいの学級2、3クラスが理想。放課後も学校での勉強やクラブ活動など、有意義な時間を過ごせるようにしてほしい。
児童予定数がまだあるので複式学級にするのは早いと思う。複式学級には反対。
一時保育やファミリーサポートの充実、出産した家庭への補助金など、子どもの人口減少に対して具体的な策を立てての町づくりが大切だと思う。また、待機児童をなくし、現場で働く保育士の待遇をよくするなどの課題の解決もしてほしい。
子育て世代がなかなか説明会に出向けない中、今回のようなアンケートは問題に関わる人たちの声を吸い上げるにあたってすごく良いこと。集計するだけでなく、どのような意見があったのかも知らせてほしい。
就学以前の、保育園や幼稚園の見直しも考えてほしい。
児童クラブの定員を増やし、長期休業時の預かり時間を早めてほしい。就業時間が早い保護者が多く、現状開始時間まで外で待っている児童もいる様子(冬の寒い日や雨の日でも)。
今、ここ数年で答えを出すべき問題なのかわからない。
人数が少ないと運動会などの学校行事もさみしいと思う。
保育所が統合されて、保育士の“人数が増えて対応が難しい”という声が多く聞こえたのでそうならないようにしてほしい。
再編する時期が遅すぎる。山下第二小建設前に人口推移も予測できたであろう。その時であれば建物の大きさも変更できたであろうし、予算面でも改めて割く必要がなく、税金の無駄遣いにならなかった。
学区のバランスからみても、なぜ山下第二小建設の際に山下小と山下第二小が統合しなかったのか。再編を考えるのであれば、当然統合した先の校舎は新しい山下第二小になると考えられるが、その人数を収容するだけのキャパがないように思える。その点で現在の規模で山下第二小を再建したことが納得いかない。
山下第二小を新しくしたということは、統合の際に残すのは山下第二小の校舎なのか。あの規模で二学級×六学年入るのか。山下小は築年数が経っているので建て直さない限り残すのは難しいだろう。
少子化や学区による人数の偏りは想定できたこと。再編を考えるなら、もっと早くベストな方法を考えるべきだった。山下第二小を震災後再建したが、合併するには中途半端な大きさである。その場しのぎの策だったように感じる。もう少し計画性がないと税金を無駄にしてしまうことになりかねない。

今後再編による統廃合があると予想できたのかかわらず、山下第二小を建てたのが理解できない。

山下第二小ありきの再編は間違いとしか思えない。

山下小学校があるのに、つばめの杜に新たな小学校を作ったのは間違いだと思う。そのうえでこのようなアンケートに何か意味があるのか。残念だ。

参考

保育所・幼稚園保護者意向調査票